

2024 年度 FD・SD 推進委員会活動報告書

2025 年 6 月 19 日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

1. 活動経過

- 2024 年 4 月 FD・SD 推進委員会委員企画オンデマンド SD 研修会「建学の精神に基づく
白百合女子大学の教育を考える」実施開始
- 2024 年 5 月 SD 研修会「ハラスメント防止研修会」（共催：ハラスメント防止・対策委員会）
実施 *1
- 2024 年 5 月 2023 年度後期授業改善のための学生アンケート（通年及び後期多人数科目対象）
顕彰授業表彰及び顕彰授業における工夫 Web 公表 *1
- 2024 年 7 月 2024 年度前期授業改善のための学生アンケート実施（前期科目対象）
※ 実施対象科目は 2－I 参照
- 2024 年 7 月 2023 年度「FD・SD 推進委員会活動報告書」を本学ホームページにて公開
- 2024 年 10 月 大学院 FD 研修会「新規定に基づく適切な博士論文指導をめぐって」（協力：大学
院専門委員会）実施 *2
- 2024 年 10 月 2024 年度前期授業改善のための学生アンケート顕彰授業結果報告及び顕彰授業
における工夫 Web 公表 *2
- 2024 年 11 月 全学 SD 研修会「白百合女子大学の現状と今後の課題や展望について」実施 *2
- 2024 年 12 月 よりよい学びのための学生懇話会実施（学部生対象）
- 2025 年 1 月 2024 年度後期授業改善のための学生アンケート実施（通年及び後期科目対象）
- 2025 年 2 月 FD・SD 推進委員会委員企画「学習材としての白百合女子大学キャンパスの探究
（その 1）」実施 *2
- 2025 年 2 月 オンデマンド型 FD・SD 研修会「障害者差別解消法に関する理解・啓発」（共催：
ウェルネスセンター）実施 *2
- 随時 各教育組織等で実施した FD・SD 研修等を記録し共有 *2 *3

*1 令和 6 年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

*2 令和 7 年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

*3 学長ビジョンに基づくアクションプラン推進計画 B-IV-1-1-②「教育方法に関する
教員間での情報共有体制の構築」に対応

2. 各ワーキンググループの活動

本委員会は、Ⅰ．「授業改善のための学生アンケート」、Ⅱ．「講演会（全学 FD・SD 研修会）」、
Ⅲ．「学生懇話会」の 3 つのワーキンググループを軸に、各委員が企画・運営を担っている。
その活動について次のとおり報告する。

I. 授業改善のための学生アンケート

実施期間：〔前期〕2024 年 7 月 2 日（火）～7 月 29 日（月）

：〔後期〕2025 年 1 月 6 日（月）～1 月 23 日（木）

実施方法：Web（CAMPUSSQUARE）

対象科目：人間総合学部専門科目、宗教学課目、共通課目、学部共通課目、司書課程科目、
司書教諭課程科目、大学院（児・発）専門科目

回答にかかる学生の負担軽減と、より適切なアンケートの実施を目的に検討を重ね、2022 年度から実施対象科目を二分割し 2 年間で全科目のアンケートを実施している。設問項目は 2023 年度に大幅な見直しを行い 28 問から 23 問としたがその後も検討を重ね、2024 年度は設問数はそのままに、一部の設問に修正を加えた。

回答率は前期 39.4%、後期 33.4%で、各学期とも 2023 年度より約 3 ポイント減となったが、それ以前に Web 上で実施した過去 3 年間を上回る結果であった。集計結果は個々の授業及びカリキュラム改善に役立てるため、各授業担当教員及び学長、副学長、研究科長、学科長・センター長へフィードバックした。なお前期実施分まで、各教員は実施後約 1 ヶ月で配信される個別結果表にて結果を確認していたが、後期実施分より個別結果表に加え、終了日翌日から CAMPUSSQUARE にて回答を確認、ダウンロードできるよう設定を改めた。

アンケート結果を活用した顕彰授業は資料 1（pp.5-6）のとおりである。アンケート結果の全体的な傾向や顕彰授業の工夫については報告書にまとめて以下のホームページにて公表した。

<https://www.shirayuri.ac.jp/guide/financial/fd-sd/>

なお、本アンケートは更なる改善のため、3 年に一度、全専任教員に意見を寄せていただいている。2024 年度は 9 月に「授業改善のための学生アンケートに関するおうかがい」と題した Web アンケートを行い、対象者 74 名中 21 名から回答を得た。

実施形態や設問項目、対象科目の二分割実施、結果報告書の内容についてはいずれも 75% 以上が「このままでよい」との回答であった。一方で全科目を二分割して 2 年間で全科目のアンケートを実施することへの疑問、設問項目の多さ、アンケート結果公表の不十分さを挙げる意見が寄せられた。少数ではあっても現実施体制への不十分さをつく貴重な意見と受け止め、今後の検討課題としたい。

そのほか、教員に対する理不尽な要求や悪意、誹謗・中傷とも受け取れる内容がアンケートの自由記述欄に書かれることがあるため、防止策を講じてほしいとの声があり、検討の結果、後期実施より設問の前と学生への事前周知文に注意を促す文言を追加した。また manaba course での実施を望む声もあり、機能等について照会・検討したが、経費の面から今後も現行のまま実施していくこととなった。

II. 全学 SD 研修会

日本の大学教育改革に関する動向や未来予測をふまえ、本学の現状と今後の課題や展望についてさらに理解を深め、今後の職務の指針とすることを目的とし、「白百合女子大学の現

状と今後の課題や展望について」をテーマに全学 SD 研修会を実施した。

専任教職員 100%の参加を得て、全学的な取り組みとしての一定の成果があったと考えられる。一方で、テーマに関連した継続的な取り組みを期待する声が複数あったことは成果であり課題でもある。また、研修会後となる 2024 年 12 月 25 日には中教審（第 140 回）において「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について（答申【案】）」が示されたところであり、本学の今後について、こうした社会的動向をふまえた全学 FD・SD 研修会にてさらに研鑽を積む機会を設けていくことが重要であるとする。

→ 資料 2（pp.7-11）参照

実施日時：2024 年 11 月 18 日（月）16 時 20 分～17 時 50 分

実施形態：対面、Zoom でのリアルタイム配信、録画視聴

参加人数：専任教員 74 名、専任職員 62 名、非常勤職員 6 名 合計 142 名

Ⅲ. よりよい学びのための学生懇話会

学部生を対象に、「大学のキャリア教育」と「昼休みや空きコマの過ごし方」の 2 点をテーマとして懇話会を実施した。当日は 3 グループに分かれ、各学生が自身の経験等を振り返り、良い点や改善点を出し合い活発な意見交換の場となった。報告書は本学の教育や学内環境改善の手がかりとしてもらうべく、内部質保証委員会と事務責任者連絡会議へ共有した。

→ 資料 3（pp.12-17）参照

実施日時：2024 年 12 月 3 日（火）12 時 10 分～12 時 55 分

参加者数：学部生 12 名、教員 3 名、職員 3 名

3. 各教育組織及び FD・SD 推進委員会委員有志による FD・SD 研修会の実施

2021 年後期より、各教育センター・学科で行っている FD・SD 研修を記録し成果を共有する取り組みを実施している。また、2024 年度は領域や分野を横断するテーマで FD・SD 研修会を企画し、所属や教職員の別にかかわらず参加希望者を募ることでより有意義な研修の実現を目指し、本委員 3 名がオンデマンド SD 研修会「建学の精神に基づく白百合女子大学の教育を考える」及び、FD・SD 研修会「学習材としての白百合女子大学キャンパスの探究（その 1）」を実施した。

→ 資料 4（pp.18-31）参照

4. 他部署・組織との連携による FD・SD 研修会

2024 年度は以下の 3 件について実施した。

I. SD 研修会「ハラスメント防止研修会」

共 催：ハラスメント防止・対策委員会

実施日：2024 年 5 月 20 日（月）16 時 30 分～18 時 ※オンデマンド視聴～6 月 21 日

→ 資料 5（pp.32-33）参照

II. 大学院 FD 研修会「新規定に基づく適切な博士論文指導をめぐって」

協 力：大学院専門委員会

実施日：2024 年 10 月 3 日（木）16 時～16 時 30 分 ※オンデマンド視聴～10 月 23 日

→ 資料 6（pp.34～37）参照

III. オンデマンド型 FD・SD 研修会「障害者差別解消法に関する理解・啓発」

共 催：ウェルネスセンター

実施期間：2025 年 2 月 7 日（金）～3 月 31 日（月）

参加人数：専任教員 22 名、専任職員 16 名 合計 38 名

趣 旨：

改正障害者差別解消法が令和 6 年 4 月 1 日に施行され、私立大学及び民間事業者へ合理的配慮の提供が義務化された。このため、高等教育機関全体で障害のある学生への支援体制をより一層整える必要がある。こうした背景を踏まえ、障害者差別解消法の基本的な事項について解説された動画を視聴することで、本学における障害学生支援の在り方について考える契機となることを目的として企画した。

研修内容：

受講者は日本学生支援機構提供の「障害者差別解消法に関する基本事項について」の 6 本の動画を視聴し、事後アンケートに回答する。

5. 職員の SD 研修への取り組み

2023 年度から、外部研修として日本能率協会主催の JMA 大学 SD フォーラムに参加しており、2023 年度／2024 年度は延べ 24 名／16 名の職員が研修に参加。具体的には、「教育関係法令の理解と設置認可申請作成や学内規程作成のポイント」「学校法人会計基準の理解と管理会計・IR の効果的活用法」「データ分析・統計セミナー」等、専門分野ごとに多様な研修へ職員の参加を促している。

以上

「授業改善のための学生アンケート」2024 年度前期 顕彰授業について

2024 年 9 月 19 日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業やカリキュラム改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお 2022 年度より 2 年間で全科目のアンケートを実施することとし、2024・2025 年度は全科目区分を 2 分割して実施しています。2024 年度は、人間総合学部専門科目、宗教学科目、共通科目、学部共通科目、司書課程科目、司書教諭課程科目、大学院（児・発）専門科目が対象です。

2024 年度前期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2024 年度前期

少人数部門（履修者 6～19 名）

前期金曜日 4 限

「領域言葉」土橋 久美子 先生（人間総合学部初等教育学科准教授）

多人数部門（履修者 20 名以上）

前期火曜日 5 限

「アニメーション制作 A」やた みほ 先生（人間総合学部児童文化学科准教授）

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 6 項目（項目毎の平均点の合計／30 点満点）とする。
 - Q7 教員の説明はわかりやすかった。
 - Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
 - Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
 - Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
 - Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
 - Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6 名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰部門は、「少人数」（履修者数 6～19 名）と「多人数」（履修者数 20 名以上）の 2 部門とする。
- ⑥ 顕彰対象は各部門第 1 位の授業とし、白百合女子大学 FD・SD 推進委員会にて選考を行う。その後、顕彰対象授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑦ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」2024 年度後期 顕彰授業について

2025 年 4 月 24 日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業やカリキュラム改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお 2022 年度より 2 年間で全科目のアンケートを実施することとし、2024・2025 年度は全科目区分を 2 分割して実施しています。2024 年度は、人間総合学部専門科目、宗教学科目、共通科目、学部共通科目、司書課程科目、司書教諭課程科目、大学院（児・発）専門科目が対象です。

2024 年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2024 年度後期

少人数部門（履修者 6～19 名）

金曜 2 限、児童文化学科専門科目

「演習」森下 みさ子 先生（人間総合学部児童文化学科教授）

多人数部門（履修者 20 名以上）

火曜 4 限、初等教育学科専門科目

「教職実践演習（小）」神永 典郎 先生、中田 正弘 先生（人間総合学部初等教育学科教授）

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 6 項目（項目毎の平均点の合計／30 点満点）とする。
 - Q7 教員の説明はわかりやすかった。
 - Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
 - Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
 - Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
 - Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
 - Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6 名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰部門は、「少人数」（履修者数 6～19 名）と「多人数」（履修者数 20 名以上）の 2 部門とする。
- ⑥ 白百合女子大学 FD・SD 推進委員会は、選考資料をもとに各部門第 1 位を確認、顕彰対象授業を決定する。
その際アンケート回答率によって順位を調整する場合がある。その後、顕彰対象授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑦ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

2025 年1月 28 日
FD・SD 推進委員会

2024 年度 全学 SD 研修会 実施報告書

「白百合女子大学の現状と今後の課題や展望について」

教職員の SD 推進活動および自己点検・評価活動の一環として、日本の大学教育改革に関する動向や未来予測を基にしながら、白百合女子大学の現状と今後の課題や展望についてさらに理解を深め、今後の職務の指針とするための学内 SD 研修会を企画した。詳細は以下の通りである。

日時・会場：2024 年 11 月 18 日(月)16 時 20 分～17 時 50 分 クララホール

方 法：対面、Zoom でのリアルタイム配信、録画視聴

テ ー マ：「白百合女子大学の現状と今後の課題や展望について」

講 演 者：第7代白百合女子大学学長 猪狩友一先生

対 象：全専任教員・全職員（非常勤職員の参加は任意）

1. 講演内容

猪狩友一先生から基調講演として現在の女子大学をめぐる状況や、白百合女子大学の置かれている現状と課題、今後の大学が目指す改革やその方向性についての説明があり、その後、近江事務局長より大学の財政状況などについての説明、最後に質疑・応答が行われた。

2. 参加人数

専任教員：74 名／研修対象 73 名（参加率 100%）

専任職員：62 名／研修対象 62 名（参加率 100%）

非常勤職員：6 名

合計 142 名

※ 実施時にサバティカル、休職等で不在の専任教職員は研修対象から除外

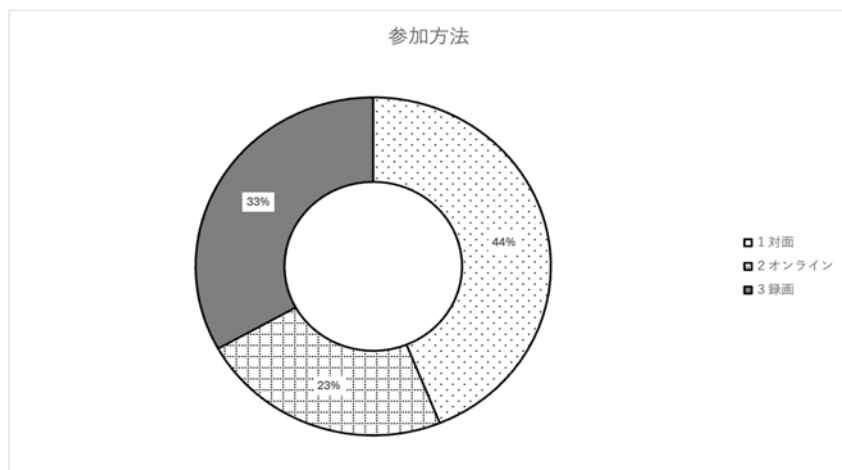
※ 専任教員の参加人数にはサバティカル教員 1 名も含む

3. 参加者アンケート集計結果（回答数 140 人）※2025 年1月 22 日集計時点

以下のアンケート回答は学内教職員である当日の講師2名を含まない、参加者 140 名の回答を記載するものとする。

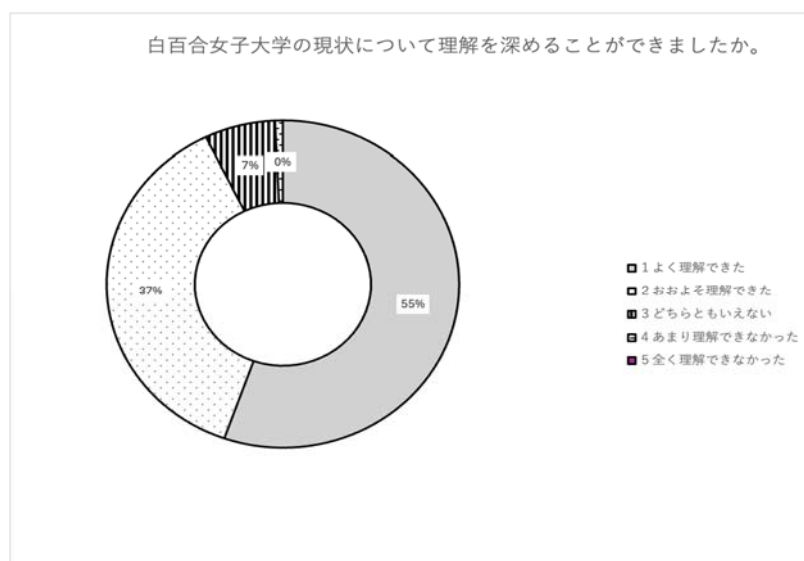
①参加形態

1:対面	61 名
2:オンライン	32 名
3:録画	47 名
合計	140 名



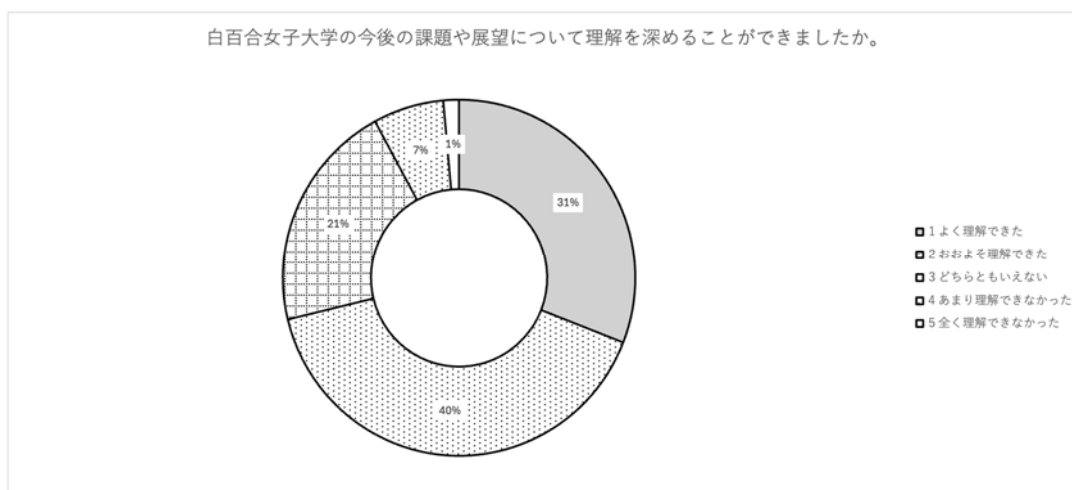
②白百合女子大学の現状について理解を深めることができましたか。

1:よく理解できた	78 名
2:おおよそ理解できた	52 名
3:どちらともいえない	9 名
4:あまり理解できなかった	1 名
5:全く理解できなかった	0 名
合計	140 名



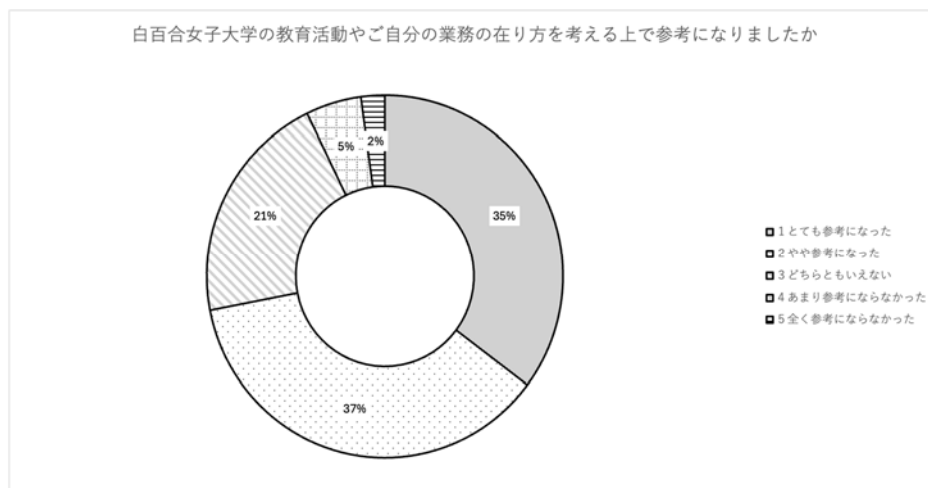
③白百合女子大学の今後の課題や展望について理解を深めることができましたか。

1:よく理解できた	43 名
2:おおよそ理解できた	57 名
3:どちらともいえない	29 名
4:あまり理解できなかった	9 名
5:全く理解できなかった	2 名
合計	140 名



④白百合女子大学の教育活動やご自分の業務の在り方を考える上で参考になりましたか。

1:とても参考になった	49 名
2:やや参考になった	52 名
3:どちらともいえない	29 名
4:あまり参考にならなかった	7 名
5:全く参考にならなかった	3 名
合計	140 名



⑤自由記述「本研修会の内容を今後どのように活かせると思いますか。具体的なアイデアや
お考えがありましたら、ご記入下さい。」

76 名から回答があった。研修により現状を理解したという状況で、そこから今後の業務へ繋げるのはまだ難しいという回答も上がっていた一方で、受験生獲得のための高校生や親へのアピール、知名度アップに関する具体的な提言、また白百合のブランドイメージについての取り扱い、経営戦略など大学の今後の課題と展望に関して具体的で明確な戦略などを提案している内容が数多く回答されていた。

⑥自由記述「本研修会に対するご意見やご感想などをご記入下さい。」

99 名からの回答があった。内容は主に研修会の当日の運営に関するものから、さらに意見交換ができる場を作ってほしいといったもの、今回の大学の現状に関する感想、現在の業務や学内の組織について、また今後のビジョンや改革についての回答であった。特に、今回の講演で危機感を共有できたこと、教員との連携の課題などについて複数の職員から回答があり、今後に向けてのビジョンや具体的な内容を求めていることについて多くの教員から回答があった。

⑦自由記述「研修会で学びたいテーマやご要望などがあればお書き下さい。今後の研修会企画時の参考に致します。」

43 名からの回答があった。女子大学に関する内容、また今後の学生募集に関わる内容、大学の広報、他大学の動向、教育支援、学生支援に関する研修への要望が回答されていた。

以上

2024 年度学生懇話会 報告書

【開催日】 2024 年 12 月 3 日（火）12:10～12:55（クララホール）

【グループ】

A グループ「テーマ／キャリア教育」学生 4 名（仏 4 年、1 年、児 2 年、初 3 年）

B グループ「テーマ／キャリア教育」学生 5 名（国 4 年、英 1 年、児 2 年 2 人、初 4 年）

C グループ「テーマ／昼休みや空きコマの過ごし方」学生 3 名（国 2 年、仏 4 年、児 2 年）

グループ A 大学のキャリア教育について

【進行者】大葉（キャリア支援課）【記録】青木（教務課）

○学内のキャリア教育について

- ・「キャリア研究」で進路やキャリアを考えるきっかけができた
- ・自分のやりたいことを聞かれても何もない状態だったが、「キャリア研究」で色々な道があることを知ることができ、自分自身の興味を引き出すことができた。
- ・他大学の友人から、大学で公務員講座を受けられると聞いて、白百合にもあったらよいと思った。

○授業で伝えてもらいたかった（伝えてもらいたい）こと

- ・強みの深掘りをする授業があったらいい。3 年の春休みに始める人が多いが、自己分析が進まないの、2 年生のうちにあったらよかった。プログラムにはあるが、共通科目など誰でもとれる授業があったらよかった。
- ・インターンは探さないといけなかったの、1、2 年生からどうやって探すのか、企業の見つけ方を教えてもらいたかった。
- ・インターンとは何かを教えてもらいたかった。職務適性検査の結果を聞く機会を逃してしまったので、授業の中で完結したかった。
- ・どんな企業があるのか、自分の興味のあることは何かを知るきっかけが欲しい。必修の授業で忙しいため、授業の中で自分を見つめ直す時間があったらよい。

○キャリア支援課が開催しているセミナーに 1、2 年生も参加できることを知っているか？

- ・行ったことがない。まだ早い、行ってもわからないのではないかと考えてしまう。

○キャリア支援課の利用について

- ・ゼミの先輩から話を聞くことでキャリア支援課へのハードルが低くなった。上下のつながりが強くなって情報が得られれば就活に入りやすくなる。
- ・ゼミの先生がキャリアに特化しているので、キャリア支援課や就活係（4年生の春に就活を終えた人が担当する）をもっと利用しようというアドバイスをしてくださった。
- ・先輩との繋がりがないので、聞ける人がいない。

縦のつながりが強く、先輩から多くの情報が得られると就活に取り組みやすいことが話の中から伝わってきました。4年生が「私は、キャリア支援課に2年生から行くようになった。いつ行っても大丈夫。早めに行くと自分に合った企業が選べて良い。」とアドバイスをしてくれていました。キャリア支援課へのハードルが高いと感じている1、2年生にとって、就活に踏み出す良いきっかけになったのではないかと思います。

グループB 大学のキャリア教育について

【進行者】やた（児童文化学科）土井（英語英文学科）

○4年生の就職活動について

- ・公務員として、都の職員になることが決まっている
- ・企業の内定をもらっているが、大学院に行こうか迷っている

○1年生、2年生の就職に対する考えについて

- ・職種は決まっていないが、誇りの持てる仕事に就きたい。今週のセミナーに参加する予定である。
- ・公務員を目指そうと思って専門のセミナーに行ったことがあるが、「キャリア研究」を受けて考え方が変わり、今は企業に興味を持っている。
- ・周りに公務員が多いが、自分は一般企業に勤めて視野を広げたいと考えている。

○キャリア支援課の利用について

- ・公務員の予備校に通っていたため、サポートを受けていたが、繁忙期はなかなか面談の予約がとれなかったため、大学のキャリア支援課を利用していた。丁寧にエントリーシートを見て添削してくれたところがよかった。
- ・中小企業について知ることができて視野が広がった。

○ 4 年生に聞きたいこと

・まずは何から始める？

→ 就職サイトに登録する

・資格をとった方がよいと聞くがどんな資格がよいか？

→ 周りは司書、日本語教育の資格をとっている人がいるが、初等教育は独自の資格があるので、あまり参考になる話ができない。

・エントリーシートについて

→ 志望動機が主で、「ガクチカ」はあまり問われることがない。

最初は 4 年生が中心となって就職活動の話をしてくれました。公務員に内定している方に対し、「公務員に興味があって勉強しようと思っていた。」「両親が公務員なのでよくわかる」と 1、2 年生も公務員についての話をしてくれ、学科の隔たりなく和気藹々と進められました。

「どのような職種に就きたいか？」と聞いたところ、1 年生が「誇りを持てる仕事がしたい」と強い意志を持って言われたことが印象的でした。短い時間でしたが、4 年生の頑張りが伝わり、1、2 年生にとって刺激のある時間が過ごせたと思います。

グループ C 昼休みや空きコマの過ごし方について

【進行者】越（フランス語フランス文学科） 【記録】森田（教務課）

○ 空き時間や昼休みはどのように過ごしているか。

・本が好きなので図書館で過ごすことが多い。資格の勉強もする。勉強は携帯電話の充電ができるのでフォンス・ヴィーテですることが多い。また空き時間は仮眠したりもするが、どこか部屋があればよいと思う。

・友達とお菓子を食べながらおしゃべりをして過ごす。フォンス・ヴィーテは多くの学生がいるが、3 号館 2 階はわりと空いている。携帯電話の充電もできる。1 人でいるときは課題をしたり動画を見たりする。

・授業が 1 号館の教室で行われることが多いため、ステラ・マリスを利用することが多い。2、3 限が空きコマのときは学食が混み合うので、お昼休みは動画を見て、3 限の時間に学食でお昼ごはんを食べる。

○ 昼休みの時間は 1 時間だが足りているか。フランスでは 2 時間くらいある。

・ちょうどいい。学生会に入っているが、昼食を食べながらでも参加できる。

- ・1時間で困ったことはない。お昼はひとりでさっと済ませることが多い。
- ・新歓など予定があるときはもう少し時間がほしいと思うこともあるが工夫してやりくりしている。

○これがあつたらいいな、というものはあるか。

- ・電子レンジの台数が少なくいつも並ぶので、1か所に5台くらいあると助かる。友達が持ってきたお弁当を温めるのに昼は混み合っている。いつも時間がかかっている。
- ・カフェテリアのパンは種類が限られていて売り切れるのも早いため、もっと種類があれば。サンドイッチも増やしてほしい。
- ・ステラ・マリスを出たところにアイスの自動販売機があるが、同じところにワッフルやおにぎりなど軽食の自販機があると嬉しい。
- ・予算もあると思うが、図書館に希望の本を気軽に入れられるようにしてほしい。ブックアウトで選べるのは知っているが、希望理由を書いて OPAC からリクエストするのはハードルが高い気がする。
- ・アミカピアが閉まるのが早いので、パンやパックジュースの自販機があればよいと感じる。午後におなか为空いたときなどに利用できる。また、11号館の3号館のテラスだけでなく、他の建物も屋上にも気軽に出入れるとよい。

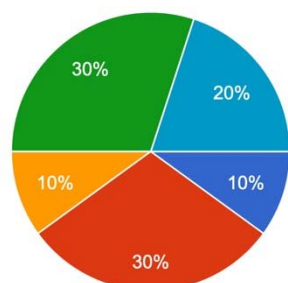
2024年度学生懇話会Cグループ「昼休みや空きコマの過ごし方」の議論を通じて、学生たちの日常生活や学内施設の利用実態について深く理解する機会を得ました。3名の参加学生それぞれが異なる視点で意見を述べてくれたことは貴重でした。大学として改善を検討すべき具体的な課題が浮き彫りになったと感じています。特に、電子レンジやカフェテリアの混雑、軽食の自販機の不足といった要望は、学生生活の質向上に直結するものと考えられます。また、昼休みの長さについての議論では、現状に満足している学生が多い一方で、一部の特別な状況では柔軟性が求められることも分かりました。

司会進行役として、参加学生が率直な意見を述べやすい雰囲気づくりに努めました。その結果、終始活発で建設的な議論が展開されたことは喜ばしいことでした。この懇話会で出た意見が、今後の大学運営に役立てられることを期待しています。引き続き学生たちの声に耳を傾け、より良い学習環境の提供に尽力したいと思います。

懇話会後アンケート結果

あなたの所属学科を選択してください。

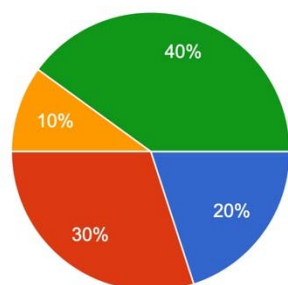
10 件の回答



- 国語国文学科
- フランス語フランス文学科
- 英語英文学科
- 児童文化学科
- 発達心理学科
- 初等教育学科

あなたの学年を選択してください。

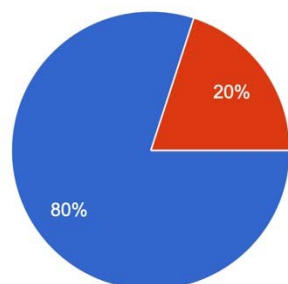
10 件の回答



- 1年
- 2年
- 3年
- 4年

参加したテーマを選択してください。

10 件の回答



- キャリア教育について
- 空きコマ、休み時間の過ごし方について

<自由記述>

・少し思っていた感じとは違いましたが、今後活動していく方向性が見え、キャリア支援課やイベントへのハードルが下がりました。

・教職員の方が話題を振ってくださったおかげで、現在のキャリア教育から、今後のキャリア教育をどのように変えていくかを参加者全員で検討することができたと感じた。

・4年生のお話が聞けて良かったなと思いました。公務員には色んな選択肢があることに改めて気づけました。

・楽しかったです。後輩が聞き足りないそうにしていたので、もっと就活をテーマに別の時間を組んでみてもよいかとおもいました。

・休み時間の過ごし方を共有したり、取り入れてほしいことを提案したりできて、自分の大学での過ごし方を見直すいい機会になった。私とは違う過ごし方をしている人の話を聞いて、私が気づかなかった問題や場所を知ることでもできた。

・先輩方の就職活動の現状や2年生の意見を聞けることが出来て良かったです。また、キャリアのための授業があることを初めて知れたので懇話会に参加出来て良かったなと思いました。

・普段話さない他学年や他学科の方や先生方とお話しができて楽しかった。これがあったら嬉しいというお話で、他の方が出した意見に多く共感しました。

・他学年他学科の人と話す機会はなかなかないため、異なる価値観や考えを共有できて良い経験になりました。自分の将来、キャリアを考えるためにもこのような機会は重要であると感じました。

・今回の懇話会に参したことで、各学年のキャリア支援課の印象や、求めている事を明確に理解する事ができました。就活を終了した4年生から、実際に利用した制度やためになった授業・活動のお話を聞けたので、実際に4年生になった時、どのような意識をするべきかを学べました。また、就活に早すぎる事はないと明確におっしゃって頂けたので、積極的にキャリア支援課に通い、今できる事から着実に就活の準備を進めていきたいと思いました。

・前回参加した際に楽しかったので今回も参加させていただきました。テーマは一つに絞るのではなく二つ話すとより色々な意見が出ると思います。学生が話を回すとより場も盛り上がるのではないのでしょうか。

<今後話したいテーマ>

・趣味を仕事に繋げるか

・お昼ご飯が食べれるような雰囲気作り

・キャンパス内の植物

・必修授業についてのお話をしたいです。

2024 年度 各学科・センター等の FD・SD 活動

I. 各教育組織にて実施した FD・SD 研修会

【カトリック教育センター】

テーマ(タイトル)	2024 年度カトリック教育センター講師会
目的	教学に関わる本学の動向共有と教材・教授法等の検討吟味を実施し、よりよい宗教学教育の実践へとつなげる。
種別	FD
開催日時	2025 年 3 月 6 日(木)10 時半～12 時半
場所(開催方法)	セントポール・コイノニアルーム(2 号館 2 階 2207)
主催	カトリック教育センター
講師	カトリック教育センター専任教職員
参加人数・氏名	17 名 専任教員:石井雅之、内海崎貴子、海老原晴香、釘宮明美、佐々木裕子、高山貞美 専任職員:山口菜見子 非常勤職員:光藤真知子 非常勤講師:浅野幸、オノレ M. カブンディ、瀧岡啓子、田口博子、土居由美、豊島治、中西恭子、保坂ひろみ、森裕子
内容 (概略・成果等)	第 1 部 連絡事項 (10:30～11:00) ○大学全体に関すること 1.教育センターの組織改編について (資料 1 上) 2.2025 年度の入学者数及び各学年在学者数の見通しについて (資料 2) 3.新カリキュラムへの移行予定について (資料 1 下/ガイダンス資料) 4.質疑応答 ○カトリック教育センター関係 1.教員の異動について(専任・非常勤) 2.2025 年度の協力司祭について 3.カトリック教育センター・コイノニアルーム関係 2025 年度の予定について (コイノニアだより) 4.宗教学科目の学修成果発信について 5.「ぶどうの木」「コイノニアだより」配布前の連絡について 6. 質疑応答 ◇児童文化学科生制作「建学の精神キャンパスツアー」視聴 (11:00～11:10) 第 2 部 センターFD (11:10～12:30) 1.入学易化による学生の変化と対応について 2. 授業の出欠管理について 3. 修養会について 4. 成績評価について 5. 受講上の合理的配慮について 6. 授業計画立案及びシラバス作成にかかわる問題・課題について 7. 教育環境の改善課題について 8. その他 特に、「◇児童文化学科生制作「建学の精神キャンパスツアー」視聴 (11:00～11:10)」にて教材を用いた授業展開を共有し、よりよい授業運営について協議を実施した。また続く第 2 部で、授業関連の問題・課題を共有し、それらへの対応・取り組みについて学び合う時間を持つことができた。4 月から始まる 2025 年度授業に向けて、課題共有と対策検討の機会となった。
記入者	海老原

【基礎教育センター】

テーマ(タイトル)	「白百合 数理・データサイエンス・AI プログラム」の再申請に向けて
目的	2028 年度に再申請の時期を迎える「白百合 数理・データサイエンス・AI プログラム」について、現状の把握と今後の展開を検討する
種別	FD
開催日時	2024 年 7 月 23 日(火)11:50～12:50
場所(開催方法)	基礎教育センター
主催	基礎教育センター
講師	匂坂智子(基礎教育センター准教授)・山梨有希子(基礎教育センター講師)
参加人数・氏名	3名(専任教員／大塚秀治・匂坂智子・山梨有希子)
内容 (概略・成果等)	「白百合 数理・データサイエンス・AI プログラム」の再申請(2028 年度)を見据え、新しいモデルカリキュラムの内容確認とともに今年度後期から始まる 1 年次必修科目「はじめてのデータサイエンス」の内容確認を行い、授業イメージを共有した。さらに、今後のプログラムのあり方、ひいては今後、1 年生にどのような情報教育を行うのが適切かを検討した。
記入者	山梨有希子

テーマ(タイトル)	各種 AI 技術の発展と図書館情報学教育への影響について
目的	各種 AI 技術が司書課程や司書教諭課程に与える影響を確認しつつ、実際の図書館サービスにおける AI の活用例も踏まえながら、実際の教育にどのように生かしていくかを確認する。
種別	FD
開催日時	2024 年 7 月 31 日 19:00～20:15
場所(開催方法)	Zoom
主催	基礎教育センター司書課程
講師	今井福司(基礎教育センター)
参加人数・氏名	専任教員:今井福司、中川恭一、非常勤講師:安斎聡子、伊藤稔、木下朋美、中村伸子、中山美由紀、横山寿美代
内容 (概略・成果等)	ChatGPT の GPT-4o バージョンで可能となった機能を概観した上で、Google 社の NotebookLM が課題文献を読み込ませて要約を書かせるタイプの課題にとっては、的確な回答を出す可能性が高いことを確認した。また横浜市立図書館が開始した蔵書検索 AI サービスを実際に動かしてみた上で、NII が実施していた WebcatPlus の代替となるかどうかを検討した。
記入者	山梨有希子

【国語国文学科】

テーマ(タイトル)	学科専門課程カリキュラム改訂について
目的	専門課程カリキュラム改訂に際してカリキュラムポリシーを再検討する。 新カリキュラム内容を検討し、その課題・問題点を確認共有する。
種別	FD
開催日時	2024 年 5 月 30 日 13 時半～14 時
場所(開催方法)	国語国文学科第三研究室(対面)
主催	国語国文学科
講師	国文学科長・教務委員(話題と情報提供)
参加人数・氏名	9 名(常盤智子、伊東玉美、川瀬卓、萩野了子、武田加奈子、小林明子、油井原均、猪狩友一、名木橋忠大)
内容(概略・成果等)	1. 学科専門課程カリキュラム改訂に際して、カリキュラムポリシー(以下 CP と略)検討を行った。検討と意見交換を経て、専門カリキュラム改訂に際して学科 CP の変更は必要ないことを確認した。2. 新カリキュラムの課題・問題点の検討、確認と共有を行った(とくに、「スペシャリストコース(仮)」のあり方について、議論を深めた)。
記入者	油井原均

【フランス語フランス文学科】

テーマ(タイトル)	仏語仏文科カリキュラムの再構築に向けて
目的	数年後の設置科目をシミュレーションしたうえで学科としてカリキュラムを設計する必要がある。今回の研修では、意志決定に必要な情報および将来の展望の予測を共有することを目的とする。
種別	FD
開催日時	2024 年 5 月 23 日 14:00～14:30
場所(開催方法)	第三仏研
主催	フランス語フランス文学科研究室
講師	海老根龍介
参加人数・氏名	海老根、越、辻川、デムナチ、畠山、ブルネ、村中、善本(8名)
内容 (概略・成果等)	【新カリに基づいた時間割】 海老根委員から、現在の出校日をもとに組んだ仮の案が示された。(資料②)これをたたき台にして今後の課題を洗い出した。 — 全体のバランス、非常勤講師の配置などを考えると、選択の余地がある 3,4 年次のコース演習科目は 1 部 3 限にはみ出してもよいのではないかと。その方針で WG に理解を求めることはできると思われる。 — 2026 年度からプログラム科目を午後に設置しなくてはならない。2025 年度の配置はできれば 2026 年度を前提に行う必要があるだろう。 【新プログラム】 海老根委員から「新カリプログラム案」(資料③)が提示された。ここで提示されている科目を 2026 年度以降に確実に提供できるよう、カリキュラムを作る必要がある。この点については、「新旧カリキュラム移行見通し」をシミュレーションしたうえで議論を続ける必要がある。
記入者	越森彦

【英語英文学科】

テーマ(タイトル)	新カリキュラム(2025 年度～)に関する説明と検討
目的	昨年度より進めている英語英文学科新カリキュラム構想について、改めて情報を共有していただき、学科内の共通理解を深める。同時に新規設置科目と時間割の組み方について詳細を検討し、確定していく。
種別	FD
開催日時	2024 年 4 月 18 日(木)14:30～16:00
場所(開催方法)	対面およびオンライン(Zoom)
主催	学科長(岩政先生)
講師	米田教務委員(教務委員長) 水越カリキュラム委員(改組 WG・学長特別補佐合同会議メンバー)
参加人数・氏名	岩政、平尾、水越、島崎、ナイト、箕輪、米田、ジョンソン、上野、船田、土井(敬称略、計 11 名)
内容 (概略・成果等)	文学部改組に伴う 2025 年度入学者からの学科カリキュラムの変更について、まず英語英文学科の専門科目に関し「1・2 年次必修英語スキル科目再編」「必修科目クラス編成」「カリキュラム改編案」「変更後の時間割」の各種資料に基づき、米田教務委員、水越カリキュラム委員より具体的な説明が行われた。新カリキュラムの設置科目の多数を占める教職課程認定に関連するものについては、担当できる教員の条件も再確認した。また新しく始まる「文学部共通プログラム」に当学科が提供する科目群についても提案がなされた。さらに、実際に新カリキュラムを動かすうえで、時間割内の専門科目の配置が大きく変わり、それに伴って今後教員の配置も見直す必要があることが確認された。現在のコース制の廃止や英語スキル必修科目の抜本的見直し、設置専門科目数の大幅な削減などの知見が共有され、改組に伴う変更内容が各自の担当科目にどう関わるかの具体的イメージを固めることができた。
記入者	土井

テーマ(タイトル)	新カリキュラム(2025 年度～)英文科新規必修科目(英語スキル科目・1, 2 年次セミナーB)について
目的	改組(カリキュラム改革)に伴って英語英文学科では必修科目の見直しが行われ、英語科目、セミナー科目が一新された。来年度シラバス提出に合わせて、担当教員から改めて情報を共有していただき、学科内の共通理解を深める。同時に検討点、審議が必要な点があれば学科全員で検討を行う。
種別	FD
開催日時	2024 年 6 月 27 日(木) 13 時 10 分～14 時 30 分
場所(開催方法)	対面(第 4 会議室)および録画視聴(オンデマンド)
主催	学科長(岩政先生)
講師	ナイト先生(英語スキル科目)・ジョンソン先生(1・2 年次セミナーB)
参加人数・氏名	対面:岩政、平尾、水越、島崎、ナイト、箕輪、倉住、米田、ジョンソン、上野、船田、土井 録画視聴:山野(敬称略、計 13 名)
内容 (概略・成果等)	1)英語必修科目(1・2 年)現状と新規科目で見た場合の英語 input 力, output 力, content 習得の成果について:科目(コマ)数を削減しつつ成果を維持するための工夫 2)新規科目内容詳細(テキストブック等)(以上:ナイト先生)3)新規初年次教育「1・2 年セミナーB」(英語授業)・目的(Overall, 1st-year, 2nd-year)・内容とその根拠、関連情報紹介 4)新規科目シラバス説明(以上:ジョンソン先生)と発表後の質疑応答により、担当予定の有無にかかわらず学科内でこれらの科目の意義・内容について理解が共有された。また他の専門科目との関連性についても確認できた。
記入者	土井

テーマ(タイトル)	新カリキュラム(2025 年度～)英文科新規必修科目「1, 2年セミナーA」について
目的	2025 年度カリキュラム改革に伴う新規科目「1・2年セミナーA」について、シラバス作成担当教員による内容説明を聞き、学科内の共通理解を深める。同時に検討点があれば学科全員で検討を行う。またその後、米田教務委員・水越カリキュラム委員による時間割検討も行う。
種別	FD
開催日時	2024 年 7 月 11 日(木) 13 時 10 分～14 時 30 分
場所(開催方法)	対面および録画視聴(オンデマンド)
主催	連絡委員(水越先生)
講師	水越先生、箕輪先生
参加人数・氏名	対面:水越、箕輪、倉住、島崎、ナイト、米田、ジョンソン、上野、船田、平尾、土井(敬称略、計 11名)録画視聴:岩政、山野(2 名)(計 13 名)
内容 (概略・成果等)	・標題科目の新カリキュラムポリシー内の位置づけ ・本学全学共通初年次教育科目との差別化 ・他大学類似学科における初年次教育科目のシラバス例、特徴の説明・本学英語英文学科生に必要とされるアカデミック・スキル、それを習得するための本科目の内容・シラバス説明 ・前回 FD 研修会テーマの「1・2 年セミナーB」との整合性 以上について講師より説明があり、その後質疑応答が行われた。レポート作成のための図書館資料検索の指導のタイミング、1 年セミナーA と 2 年セミナーA の連携、等について質問があり、議論を深めて共通理解を得た。
記入者	土井

テーマ(タイトル)	留学制度の現状と今後について学ぶ
目的	コロナ後の留学者数は激減しており、留学を希望する学生は限られている。しかしながら、留学は英語のスキルアップのみならず、異文化理解、自己形成のためにもその役割は大きい。また、広報的な観点からも、留学に力を入れていることは、大学のセールスポイントになりうる。 こうした状況を鑑み、英語英文学科全教員が留学制度を理解し、留学を希望する学生に必要なサポートができるようにすることを目的として、英語英文学科内での FD を実施する。
種別	FD
開催日時	2025 年 3 月 4 日 15:30-17:00
場所(開催方法)	英語英文学科 第 3 英研
主催	学科長(岩政先生)
講師	木原健次先生(2023 年度国際交流委員)・島崎里子先生(2024 年度国際交流委員)・上野由香先生(留学チーム)・岩政伸治先生(留学チーム)
参加人数・氏名	岩政伸治、上野由香、ティム・ナイト、水越あゆみ、島崎里子、箕輪里美、米田ローレンス正和、土井良子(専任教員 8 名)
内容 (概略・成果等)	I. 白百合女子大学の留学制度について II. 英文学科主催の留学 III. 単位認定とアドバイザーの役割 IV. 今後の留学先について
記入者	学科 FD・SD 推進委員(土井)

【児童文化学科】

テーマ(タイトル)	カリキュラム改善について
目的	学生が主体的に履修し、ステップアップするためのカリキュラム作り
種別	FD
開催日時	2024 年 5 月 23 日(木)13 時 10 分～14 時
場所(開催方法)	本館 4 階 児童文化学科研究室第 2 会議室
主催	児童文化学科
講師	児童文化学科専任教員
参加人数・氏名	浅岡靖央、井辻朱美、菊地浩平、間宮史子、水間千恵、森下みさ子、やたみほ、山中智省、酒井志麻(9 名)
内容 (概略・成果等)	1. 専門科目の修得単位数の検討 自由度を上げるため、児童文化学科は 10 単位減らして 70 単位とする 2. 児童文学系科目の変更の検討 児童文学、児童文化、創作制作 3 分野それぞれ担当の教員で話し合い、新設科目と名称変更、配当学年について検討を重ねた。 2024 年度において整合性は確認できるものの、選択科目の不備や科目名称の混乱等の問題が指摘されていた。 2025 年度に向けて学生の関心に合わせた科目の新設、適した科目名称・配当学年など、よりいっそうポリシーに基づいたカリキュラムの改善ができた。
記入者	やたみほ

テーマ(タイトル)	教育における映像コンテンツの効果的な活用について
目的	学生の興味を引き出す視覚的伝達方法について考える
種別	オンデマンド FD
開催日時	2025 年 2 月 23 日～3 月 10 日
場所(開催方法)	メールで提出し、共有する
主催	児童文化学科
講師	やたみほ
参加人数・氏名	8 名:森下みさ子、浅岡靖央、間宮史子、水間千恵、菊地浩平、山中智省、やたみほ、酒井志麻
内容 (概略・成果等)	2025 年 2 月に行ったスクーリングで、児童文化学科の YouTube 「児文@白百合ちゃんねる」にアップされている動画を見て感想を書いてもらうという課題を出した。 入学予定者のレポートから、自身の授業で活用できると思うこと、児童文化学科の YouTube チャンネルにアップしたい動画の内容について検討した。 卒論を紹介する動画に関しては、「文学、文化、制作創作をバランスよく用意しておく必要がある」「学生に、卒論とはどのようなものか、扱うテーマをどう設定するかなどを理解してもらうのに活用できる」「さらにアップしていきたいと思う」など積極的に活用したいという意見が多く出た。 また、スクーリングの動画作品に関しては、「グループワークが苦手な学生が増えているという印象だったが、アプローチを変えてみる必要があると感じた」など新しい気づきが得られた。
記入者	やたみほ

【発達心理学科】

テーマ(タイトル)	学生ニーズに即した学習支援の在り方に関する研修ー学内組織連携を活かしてー
目的	大学教育において、学内組織間の連携を活かして学生の状況に即した学習支援を行うことの重要性と支援システムの在り方について学ぶ
種別	FD
開催日時	2024 年 6 月 13 日(木) 13:50-14:30
場所(開催方法)	3 号館調査実験室 4
主催	発達心理学科
講師	発達心理学科講師 御園生
参加人数・氏名	教員 10 名(菅原、木部、鈴木、波多江、涌井、堀口、松田、眞榮城、杓名、太田)、職員 1 名(根本)、事務助手 1 名(宮崎)敬称略
内容 (概略・成果等)	現在、学生のニーズは多様化し、特にメンタルヘルスの問題を抱える学生など受け入れが喫緊の課題となってきた。そうした学生への支援は、学内連携を活かした形での学習支援が必要であるため、ウェルネスセンターにおける支援方法を確認した。しかしながら、合理的配慮や学生相談でのフォローだけでは、授業への取り組みや単位取得においての問題の解決は限界があることから、今後はそうした学生にどのようなスタイルの授業を展開することが効果的なのかについて幅広いディスカッションが行われた。グループワークによる実験や実習に関して、どのようなスタイルでの授業の展開や構造が、効果的な学習支援につながるのかについては、他大学の取り組みなどを参考に議論が交わされた。オンラインを使ったハイブリッド型の授業展開の場合には、評価やレポートについて対面で出席している学生とは異なる形式を使用すべきなのか、と入った点も改めて議論された。多様な学生のニーズに対応した授業展開と学習支援についての課題や展望が学科全体で共有、検討されたことが大きな成果であった。
記入者	御園生直美

【初等教育学科】

テーマ(タイトル)	乳幼児期の教育・保育の質保障に向けて
目的	近年国際的に重視されている乳幼児教育・保育の質保障の必要性について、海外の事例に関する知見から学ぶとともに、それらをふまえ、今後の日本の保育・教育について考察することを目的とする。
種別	FD
開催日時	2024 年 5 月 2 日(木) 13:30～14:15
場所(開催方法)	白百合女子大学本館第3会議室
主催	初等教育学科
講師	目良秋子
参加人数・氏名	教員 13 名(対面参加):宮下孝広、石沢順子、大貫麻美、神永典郎、坂本健、高橋貴志、中田正弘、目良秋子、曾我部多美、針谷玲子、川口潤子、椎橋げんき、土橋久美子、職員1名(対面参加):佐藤哲子
内容 (概略・成果等)	講師の目良秋子教授により、乳幼児教育・保育の質保障の必要性について、サバティカル中に実地調査を行ったシンガポールの事例を中心に情報提供を得た。そのうえで、幼児教育・保育を取り巻く社会文化的背景等も含めたシンガポールの幼児教育・保育の特徴、そこでの質保障の在り方をふまえ、日本の保育・教育の今後を考察した。参加者からは、「保育・教育の質を保証するためには、国としてのスローガンを国民にどのように浸透させるのか、経済状況による格差への対応など多くの課題がある」「楽しさを重視し、知識の習得だけでなく非認知能力の育成も大切にすることは、日本の教育・保育と共通するところがある」「日本の幼児教育とはかなり異なる部分がある」「日本の場合は保育か教育かと二元論で考える時期が長く続き、すべての子どもたちに良い教育環境を提供することが難しい」「(日本においては)家庭が支援という意識がないことに難しさを感じるのが現場の課題である」「子供の生活全てを教育と捉え、幼児期に早期教育を行うことで、子供の個性を十分に活かした教育が可能になる」などの意見が示され、シンガポールにおける幼児教育・保育における利点と課題を基に、我が国における幼児教育・保育の在り方や、国際的な視点に立った教員養成や保育者養成の在り方についての議論を進めることができた。
	 
記入者	大貫麻美

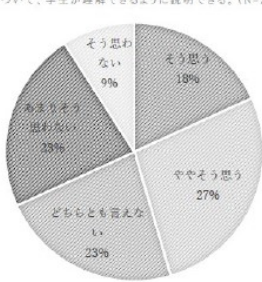
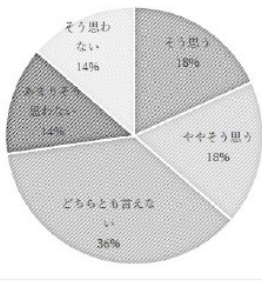
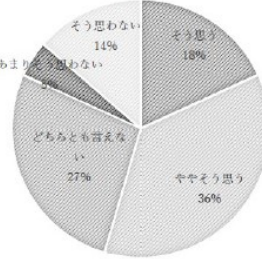
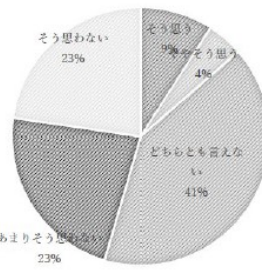
テーマ(タイトル)	初等教育学科の教育の特性を考える～2024 年度前期までの実績とこれからに向けて～
目的	全学 SD 研修会では白百合女子大学の現状と今後の課題や展望について、現学長の講演と質疑応答による理解深化がされた。その内容をふまえつつ、初等教育学科における教育の特性を再考する。
種別	FD
開催日時	2024 年 12 月 5 日(木) 13:30～14:20
場所(開催方法)	白百合女子大学 2007 教室(対面)
主催	人間総合学部初等教育学科
講師	ファシリテーター:宮下孝広(初等教育学科・学科長)

参加人数・氏名	教員(11名):宮下孝広、大貫麻美、神永典郎、坂本健、曾我部多美、高橋貴志、針谷玲子、川口潤子、椎橋げんき、土橋久美子、根本裕美 職員(1名):佐藤哲子
内容 (概略・成果等)	白百合女子大学の現状と今後の課題や展望に関する全学SD研修会の内容をふまえ、現在の初等教育学科における教育上の課題認識などについての意見交換がなされた。最近の傾向として、新型コロナウイルス感染症流行拡大下で初等中等教育を受けてきた学生の実態に即した学修支援の在り方、特にグループディスカッションやプレゼンテーションなど双方向性型の学習形態の場面などでの課題が話し合われた。また、現行の幼稚園教育要領・学習指導要領等の実践ができる保育・教育者の育成という観点から、学生に修得を期待する資質・能力を精査することや、全学共通や学部共通で開講されている授業内容と学科の専門科目との接続をどのように意識づけるか、正統的周辺参加の観点から学びをとらえることの期待などについて意見が交わされた。現在、「教育体験Ⅰ」では、キリスト教学の授業内容との連続性を持たせた活動内容を導入している。今後、学科科目と必修科目とのつながりについて、他のセンターに働きかけて共同のFD/SD研修をすることで、それをオープンキャンパス等で外に示していくということもできると考えられる。
記入者	大貫麻美

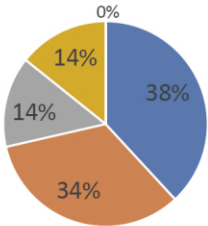
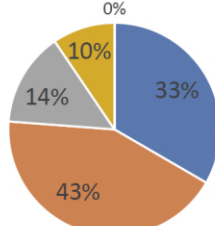
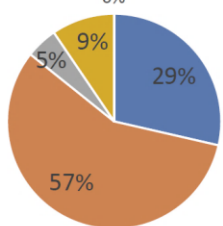
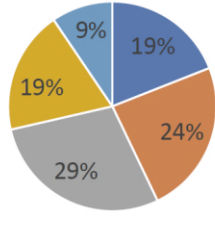
テーマ(タイトル)	初等教育学科の教育の特性を考える～2025年度中の改善に向けて～
目的	前回の学科FD研修会では、全学SD研修会の内容をふまえ、本学科のこれからの教育について認識の共有がなされた。今回は、さらに具体的な教育内容や教育法について2025年度中の改善を視野に研修協議を行う。
種別	FD
開催日時	2025年1月9日(木)13:15～14:15
場所(開催方法)	白百合女子大学2007教室(対面)
主催	人間総合学部初等教育学科
講師	ファシリテーター:宮下孝広(初等教育学科・学科長)
参加人数・氏名	教員(13名):宮下孝広、大貫麻美、神永典郎、坂本健、曾我部多美、高橋貴志、中田正弘、針谷玲子、目良秋子、川口潤子、椎橋げんき、土橋久美子、根本裕美 職員(1名):佐藤哲子
内容 (概略・成果等)	2024年度の初等教育学科の授業内容・構成全体について情報共有や確認がされた。そして、個々の学生の実態に即した指導のあり方について、特に教職・保育職をめざす学生に必要な力の涵養を視野に、各科目の授業担当の視点から報告がされた。また、個々の学生の実態に即した支援や指導について、授業担当の工夫だけに留まらず、学科全体で情報共有や継続的な支援・指導を行っていく必要があることが確認された。さらに社会的な動向もふまえ、生涯発達の観点から取得を希望する免許状に加えて隣接する他校種についての理解も深まるような授業の工夫、学科全体での履修系統に即した支援等についても議論された。 引き続き、学科全体で指導内容や方法等について検討を進めると共に、FDとして各科目担当の教員が行う指導の工夫などを学科全体で確認していく必要があることの認識共有がされた。
記入者	大貫麻美

II. FD・SD 推進委員会委員の企画による FD・SD 研修会

テーマ(タイトル)	建学の精神に基づく白百合女子大学の教育を考える
目的	白百合女子大学への入学予定者を対象として作成された入学前教育の教材を手がかりとしながら、白百合女子大学の設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の設立の経緯や活動について知り、白百合女子大学のルーツや、受け継がれる精神について理解を深め、受講者が白百合女子大学における職務の指針とする
種別	SD
開催日時	オンデマンド(各参加者の提出日を実施日とする)
場所(開催方法)	manaba course
主催	FD・SD 推進委員会
講師	主旨説明及びアンケート作成担当:FD・SD 推進委員会委員(海老原・やた・大貫) 映像資料企画・制作:カトリック教育センター、白百合女子大学教育プロジェクト推進助成採択プロジェクト 2020C
参加人数・氏名	22 名(2024/4/2～2024/9/27 まで) 松前 祐司, 釘宮 明美, 松下 ゆりか, 横田 悦二郎, 塚本 郁絵, 酒井 志麻, 阿部 真由子, 神永 典郎, 坂本 健, 土橋 久美子, 武田 加奈子, 佐藤 哲子, 川口 潤子, 三宅 裕子, 曾我部 多美, 水間 千恵, 中川 恭一, 戸塚 健太, 大塚 秀治, 武田 理香, 山中 智省, 森田 亜裕美
内容 (概略・成果等)	事前課題・映像資料・事後課題の 3 部構成(manaba course および YouTube を利用) 想定される総所要時間:40 分程度 事前課題の主旨は、白百合女子大学の建学の精神に関する内容について自分自身が学生に伝えられるかということや学生の理解を把握しているかということについて自己評価をすることである。また、映像資料視聴に先立ち、本 SD 研修会に参加することで受講者自身が期待する成果について、選択肢からの選択および「その他」を選択した場合には自由記述にて、明確にした上で映像資料の視聴を行うこととした。事後課題は本学の建学の精神に関する理解の深化や期待した成果に関する達成度とその理由を確認する設問等への回答を通して、研修成果を省察するものとなっている。 成果:事前課題における回答(下記円グラフ)では、本学の建学の精神について学生が理解できるように説明できるかという設問に対し「そう思う」あるいは「ややそう思う」とした受講者は半数を少し上回る程度(54%), シャルトル聖パウロ修道女会およびシャルトル聖パウロ修道女会と白百合女子大学の関係について、学生が理解できるように説明できるかという設問に対し「そう思う」あるいは「ややそう思う」とした受講者は半数未満、白百合女子大学のルーツと建学の精神について学生がどのようなことを知っているかを把握しているかという設問に対し「そう思う」あるいは「ややそう思う」とした受講者は 13%に留まっていた。このことから、入学前教育教材を通して、建学の精神について理解を深め学生支援等の職務の指針とするという本研修の目的は SD 研修会として適切なものであったと考えられる。受講者が期待する成果については、「白百合女子大学とその建学の精神について理解を深める。」(18 名)が最も多く、次いで「シャルトル聖パウロ修道女会と白百合女子大学との関係について理解を深める。」(16 名)となっていた。事後課題では、すべての受講生が、映像資料内容に関する理解、白百合女子大学の建学の経緯や建学の精神についての理解の深化について肯定的評価をしていた。また、期待する成果についての達成状況については 1 名を除く全員が肯定的評価をしていた。「どちらともいえない」と回答した 1 名はその理由について「理解はできたと思うが、学生に正確に説明できるかと問われると『はい』とまでは行かない。まだまだ勉強不足。」としており、シャルトルの理念が今日の様々な取り組みにどのように活かされているかについてさらに具体的な例示の提案をされていた。また他の受講者からも動画で紹介された内容について体験的な学びをしたいという提案もあったため、これらについては新たな委員会委員企画として検討を進めることが期待される。

【事前】白百合女子大学の正門に表札がある「シャルトル聖パウロ修道女会」について、学生が理解できるように説明できる。(N=22)  【事前】白百合女子大学とシャルトル聖パウロ修道女会の関係について、学生が理解できるように説明できる。(N=22) 	【事前】白百合女子大学が建学以来変わらず大切にしていること(建学の精神)について、学生が理解できるように説明できる。(N=22)  【事前】白百合女子大学のルーツと建学の精神について、学生がどのようなことを知っているか把握している。(N=22) 
記入者	大貫麻美

テーマ(タイトル)	建学の精神に基づく白百合女子大学の教育を考える
目的	白百合女子大学への入学予定者を対象として作成された入学前教育の教材を手がかりとしながら、白百合女子大学の設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の設立の経緯や活動について知り、白百合女子大学のルーツや、受け継がれる精神について理解を深め、受講者が白百合女子大学における職務の指針とする
種別	SD
開催日時	オンデマンド(各参加者の提出日を実施日とする)
場所(開催方法)	manaba course
主催	FD・SD 推進委員会
講師	主旨説明及びアンケート作成担当:FD・SD 推進委員会委員(海老原・やた・大貫) 映像資料企画・制作:カトリック教育センター、白百合女子大学教育プロジェクト推進助成採択プロジェクト 2020C
参加人数・氏名	22 名(2024 年 9 月 30 日～2025 年 3 月 31 日まで) 木部 則雄、菅原 ますみ、高橋 貴志、森下 みさ子、眞榮城 和美、赤井 律子、熊谷 義勝、山口 菜見子、香取 隆行、高津 文、杜 純江、内海崎 貴子、山口 純子、辻川 慶子、宮林 聡光、菊地 浩平、平尾 桂子、赤峯 星凜、針谷 玲子、佐野 友香、青木 俊輔、石川 尚子
内容 (概略・成果等)	事前課題・映像資料・事後課題の 3 部構成(manaba course および YouTube を利用) 想定される総所要時間:40 分程度 事前課題の主旨は、白百合女子大学の建学の精神に関する内容について自分自身が学生に伝えられるかということや学生の理解を把握しているかということについて自己評価をすることである。また、映像資料視聴に先立ち、本 SD 研修会に参加することで受講者自身が期待する成果について、選択肢からの選択および「その他」を選択した場合には自由記述にて、明確にした上で映像資料の視聴を行うこととした。事後課題は本学の建学の精神に関する理解の深化や期待した成果に関する達成度とその理由を確認する設問等への回答を通して、研修成果を省察するものとなっている。

内容 (概略・成果等)	成果: 事前課題における回答を下記円グラフ (n=22) で示す。 「シャルトル聖パウロ修道女会」について学生が理解できるように説明できるか/シャルトル聖パウロ修道女会およびシャルトル聖パウロ修道女会と白百合女子大学の関係について学生が理解できるように説明できるか/本学の建学の精神について学生が理解できるように説明できるか、いずれの問いに対しても「そう思う」あるいは「ややそう思う」とした受講者は半数を大きく超えた。一方で、白百合女子大学のルーツと建学の精神について学生がどのようなことを知っているかを把握しているかという設問に対し「そう思う」あるいは「ややそう思う」とした受講者は 43%であり、また、事前課題に付した注意書き(「回答が全て「1そう思う」の場合は、本研修会の内容は既に修得されている可能性があります。本研修会の受講は必須ではありません。受講するかどうかをご検討の上、受講される場合は下記に進んでください。」)の後にこれら受講者が本研修を受講の上、事後課題を提出したことから、入学前教育教材を通して建学の精神について理解を一層深め、学生支援等の職務の指針とするという本研修の目的は SD 研修会として適切なものであったと考えられる。受講者が期待する成果については「白百合女子大学とその建学の精神について理解を深める。」(18 名)が最も多く、次いで「シャルトル聖パウロ修道女会と白百合女子大学との関係について理解を深める。」(14 名)となっていた。 事後課題ではすべての受講者が映像資料内容に関する理解、白百合女子大学の建学の経緯や建学の精神についての理解の深化について肯定的評価をした。期待する成果についての達成状況については 1 名を除く全員が肯定的評価をした。「どちらともいえない」と回答した 1 名はその理由について「建学の精神を大学がどのように守り、伝え、運営や教育方針に反映させていくのか、今後の大学の在り方を見据えた具体的な方策について知りたいと思いました。」としており、シャルトルの理念が今日の様々な取り組みにどのように活かされるかについてさらに具体的な例示の提案をされていた。
	1.2 白百合女子大学の正門に表札がある「シャルトル聖パウロ修道女会」について、学生が理解できるように説明できる。  ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない 1.3 白百合女子大学とシャルトル聖パウロ修道女会の関係について学生が理解できるように説明できる。  ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない 1.4 白百合女子大学が建学以来変わらず大切にしていること (建学の精神) について学生が理解できるように説明できる。  ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない 1.5 白百合女子大学のルーツと建学の精神について、学生がどのようなことを知っているかを把握している。  ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない
記入者	海老原晴香

テーマ(タイトル)	「学習材としての白百合女子大学キャンパスの探究(その1)」
目的	白百合女子大学構内のキャンパスツアーと協議により、教育の観点から学内の諸施設や芸術品等について、教職員自身の自己研鑽のための学習材、授業における学生の学習材、社会連携活動等における学外者を対象とした学習材の3つの側面から意義を探究することを目的とします。今回は正門から中庭までの屋外およびチャペル内を対象とします。
種別	教員:FD, 職員:SD
開催日時	2025年2月20日(木)10:00-11:30
場所(開催方法)	白百合女子大学構内(対面実施)
主催	FD・SD 推進委員会
講師	講師:FD・SD 推進委員会委員(海老原晴香・大貫麻美・やたみほ) 資料協力: 落合英樹(入試広報部), 若林 資朗(総務部管財課)
参加人数・氏名	13名 教員(7名):川口潤子, 倉住修, 島崎里子, 武田加奈子, 根本裕美, 平尾桂子, 眞榮城和美 職員(6名):赤峯星凜, 勝田将揮, 佐藤哲子, 中井真弓, 松永美代子, 山口菜見子
内容 (概略・成果等)	本研修は下記の3部構成で実施した。 (1)3号館3005教室にて、目的の確認、今回は正門から中庭までを探索エリアとすること、授業での活用事例について講師が説明した。そして三色の付箋が貼り付けられている探索用ボード(写真1)を講師が参加者に配布し、黄色の付箋に「初耳！(参加者にとって学びとなった知見, 即ち「教職員自身の自己研鑽のための学習材」としての捉え)」、青色の付箋に「使える！(自分の授業等で活用可能だと感じた知見, 即ち「授業における学生の学習材」としての捉え)」、赤色の付箋に「聞いて！(本学の特長であると感じた知見, 即ち「社会連携活動等における学外者を対象とした学習材」としての捉え)」を記入するよう依頼した。 (2)全員で探索ボードを持ちながら探索エリアを歩き、講師による発問や説明をきっかけとしながら参加者間での疑問や知見の共有などを行った(写真2)。 (3)3005教室に戻り、講師から、授業実践事例の紹介をさらに受けた上で、自分たちが書いた付箋が貼られた意見ボード(写真3)を、3つのグループに分れて回覧しながら、グループ内でのフリー・ディスカッションを行って考察を深めた。最後に個人で事後アンケートへの記入をして活動を終了した。 フリー・ディスカッションでは、「このような形は職員が参加しやすかった」、「お互いの関心がそれぞれ違うことが感じられて楽しかった」、「スクーリングにも活用できる」、「学科に関係なく全学で使える内容だと思うので、学生や入学前の方にも活用いただきたい」、「初任者研修でこのような内容を実施してほしい」などの感想があった。 事後アンケートの内容からは以下の成果等が見出された。 ・参加者全員が本研修目的を「達成できた」と回答しており、期待される成果が得られる研修となっていた。 ・本研修会の「良かった点」について主催者が設定した選択肢(「テーマと目的」、「自分自身の学びとして白百合女子大学構内での探究活動ができる点」、「学生を対象とした授業を計画するため役立つ点」、「学外者を対象とした活動を計画するため役立つ点」、「白百合女子大学構内を実際に歩きながら探究する活動が面白い点」、「構内にある由来などを知りたいと思っていたものについて知ることができる点」、「白百合女子大学の野外環境に親しむことができる点」、「白百合女子大学のチャペルに親しむことができる点」、「構内を学習材とした事例について講師から話をきける点」、「ICTの活用を試すことができる点」、「構内を学習材とする活動について他の参加者と協議しながら探究できる点」、「その他」)の全てに、「良かった」と回答した参加者がおり、多様な成果が参加者に認識されていたことがわかった。「その他」を選択した回答者(1名)は、「他

部署、他学科の教職員と情報交換できるところ」と回答していた。

・本研修会で得た学びや感想、改善点に回する自由記述欄からは、「冒頭にお話しただいた『何かを見ているようで見えていない』とおり、意識的に見ることによる新たな発見の楽しさを感じた。」、「ディスカッションも堅苦しくなく意見交換ができる形で、職員の立場でも参加しやすかった。」、「参加者主体で、よく構成を考えられた研修会だと感動しました。」という研修会の構成に関する肯定的意見があった。これは、主催者が意図した「教える人」と「教わる人」ではない研修、参加者の意見・知見も含めた学び合いの場の構築が実現したことを示していると考えられる。学部学科・職種を越えたつながりができて有意義な研修だったと考えられるが、これについて、「学生への効果的な学びの場の提供には、学内教職員の連携が不可欠であると考えています。そのため、今回のような取り組みは、大変重要な機会であると考えています。」、「付箋のメモを見て自分と人との感じ方の違いを知り、この違いが排他的なものに向かうのではなく、多様な個性を活かしての大学作りができればよいと思いました。」、「教職員の初任者研修に入れていただけるとよい」のように、その重要性を認める意見があった。

・さらに多くの学内関係者に受講機会を、との声がある一方、屋外での活動で講師から離れた所にいると声が聞こえにくくなるといった課題の指摘や、オンデマンド型については参加希望者が半数以下であり「自分で教材を見てやるのはつまらないし適当になる」と言った声もあったことから、少人数での対面形式の活動を前提としながら、複数回の実施とするなどの工夫が必要であると考えられる。

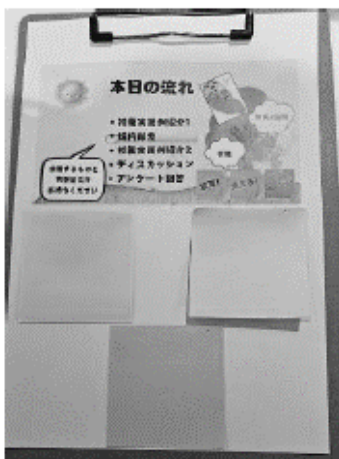


写真1



写真2



写真3

記入者

大貫麻美

以上

「大学におけるハラスメント防止」研修会アンケート集計結果

1.実施時期

「大学におけるハラスメント防止」研修会 2024 年 5 月 20 日（月）

アンケートの実施期間 2024 年 5 月 21 日（火）～2024 年 6 月 21 日（金）

2.対象

専任教職員・非常勤教職員

3.調査方法

GoogleForms によるアンケート 7 項目

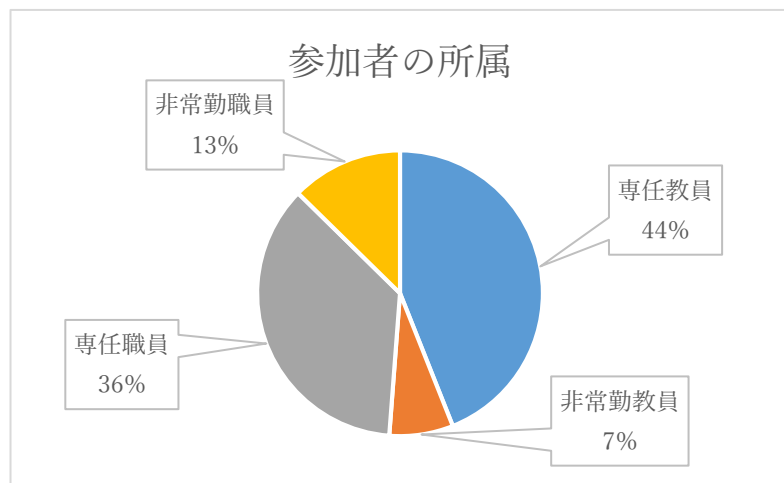
4. アンケート項目

①所属、姓、名、②参加形態 ③研修の参考度 ④意見・感想 ⑤今後扱ってほしいテーマ

①ご所属

専任教員 73 名
非常勤教員 12 名
専任職員 60 名
非常勤職員 21 名

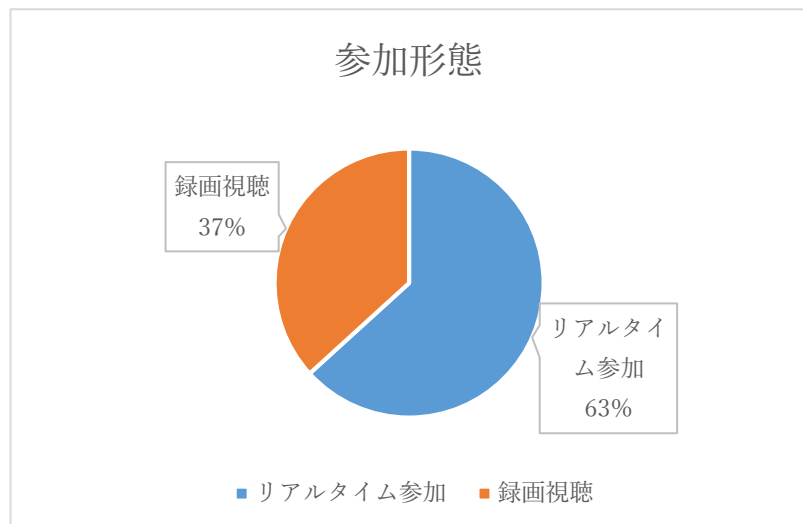
（166 件回答）



②参加形態

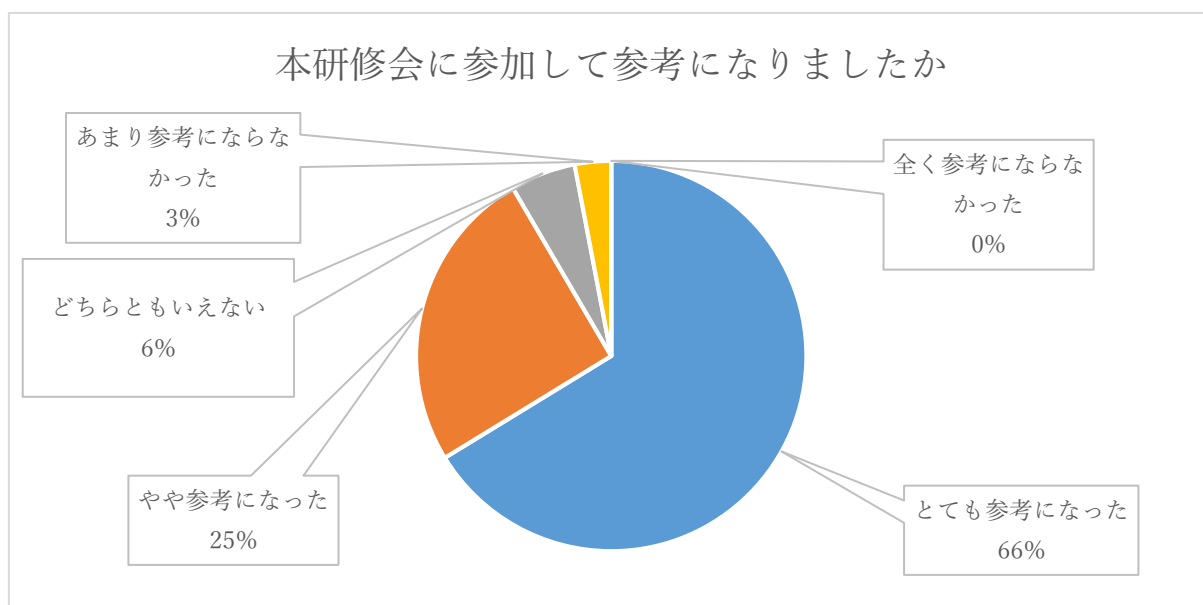
リアルタイム 105 名
録画視聴 61 名

（166 件回答）



③本研修会に参加して参考になりましたか

とても参考になった	110 名	
やや参考になった	42 名	
どちらともいえない	9 名	
あまり参考にならなかった	5 名	
全く参考にならなかった	0 名	(166 件回答)



2024 年度大学院 FD 研修会報告 「新規定に基づく適切な博士論文指導をめぐって」

1) 実施概要

実施日：2024 年 10 月 3 日（木） 16：00～16：30

場所：大会議室（欠席者は後日動画視聴）

主催：FD・SD 推進委員会（協力：大学院専門委員会）

対象：大学院博士課程（後期）研究指導教員または研究指導補助教員（2025 年度からの教員も含む、授業担当教員の参加は任意）

参加人数：大学院研究指導教員または研究指導補助教員の総数：40 名

うち動画視聴を含めた参加者数：39 名

授業担当教員参加者数：2 名

終了時アンケート回答数：37（回収率：90.2%）

その他の参加教職員：事務局長室室長（大学院専門委員会事務局）、教務部長、教務部教務課職員 2 名が対面出席したほか、博士論文作成をサポートする発達心理学専攻助教 3 名、児童文学専攻助教 1 名、言語文学研究センター助手 3 名にも動画ファイルによる内容の共有を行った。

2) 研修会の趣旨・内容：

2022 年度博士課程（後期）入学者・進学者より、新たな規定による博士論文指導スケジュールが適用されているが、教職員・学生ともに制度を十分に理解できていないケースが見られる。旧制度との相違点、新制度導入の経緯と理由、新制度での留意点を、スライド資料に基づいて研究科長より説明し理解を深めた。

3) 研修会の成果・総括：

終了後アンケート質問 1 回答者 36 名のうち、23 名（63.9%）が「研修会参加により、制度についての理解が深まった」、11 名（30.8%）が「研修会参加により、制度はおおよそ理解できた」と回答し、「研修会の内容はすでに理解していた」、「まだ完全に理解できていないところがある」は各 1 名であった。記述回答にも「制度そのものやその注意点についての理解が深まった」と、研修会の意義を強調するコメントが多く見られ、教員の理解促進に寄与し満足度も高かったことがうかがえる。

他方、「説明は分かりやすく感じたものの理解しきれていない」、「具体的なケーススタディやシュミレーションがあったほうが分かりやすかった」といった指摘もあり、実際の指導に直面した際には、専攻や周囲の教員・事務職員のサポートが求められる状況があらためて浮き彫りになった。また学生自身による制度の正しい理解の必要を唱える声も多く、研究開始時から教員と学生が認識を共有し、足並みを揃えて論文作成を進

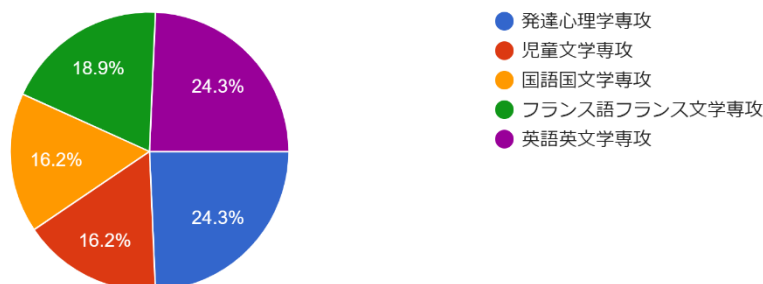
められるよう、有効なガイダンスの設定や適切な時期・方法によるリマインドの実施などは、引き続き課題といえよう。

他にも、博士論文の提出資格（とくに業績や外国語力）をさらに検討すべきである、学部とはまた異なるパワーハラスメントやアカデミックハラスメントあるいは修了後のキャリア形成についても研修の機会を設けるべきである、指導教員が指導を続けられなくなった際に指導の質をどう担保できるのかが課題である、制度も重要だがそもそも博士論文とはどういうものを教員・学生ともにしっかり認識すべきであるといった記述回答があった。いずれも、学生指導・学生支援の改善を考えるうえで大きな意味を持つ、貴重な提案や要望であると考えられる。

4) 終了後アンケート集計結果（回答数 37）：

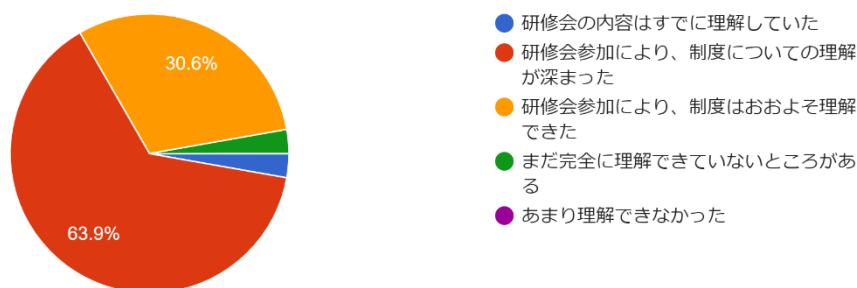
所属専攻を選択してください

37 件の回答



質問 1 本日のFD研修会により、制度の理解が深...ましたか。当てはまるものを選択してください。

36 件の回答



質問2 博士論文指導について課題だと思うことや研修会の感想等があれば記入してください。(24 件の回答)

- ・ 教員だけがスケジュールを理解しているだけでなく、きちんとリマインドするシステムも必要だと思いました。
- ・ 査読論文の規程がないことです。学術誌の査読をパスしたことがない方が研究者として独立して研究していけるのか、懸念があります。他大学では査読2本が定められているところが多いと思います。
- ・ 論文指導も重要ですが、MD ともに大学院修了後のキャリア形成に関する研修会などもありましたら幸いに思います。どうかよろしくお願い致します。
- ・ 白百合では問題になっていないだろうと（期待も込めて）と思いますが、アカハラやパワハラの問題は他大学では深刻のようなので、考える機会を作るとよいように思います。
- ・ 白百合の博士論文指導のシステムについてよくわからないことが多かったので、今回の研修は大変助かりました。自分が博士論文を書いた時には、その時点での業績（論文数）や、英語能力の確認などが提出条件としてありましたから、それと比べるとまだまだ条件や期限、プロセスについて未整備などところがあるのかなと思いました。しかし、このようなFD研修により、学生にも教員にも充実した体制が整っていくと思います（2022年以前の方はどうなっているのかも教えて頂きたいです）。貴重な研修をありがとうございました。
- ・ 博士課程に学生が進学した時点で、指導教員と学生と一緒にスケジュールを確認しておくことが大切だと思いました。期限内に論文が仕上がらないことは往々にしてあると思いますが、再入学や、学費がだいぶ減免される制度などは、学生があらかじめ知っておくことで心の余裕を持って研究に専心することにつながると感じました。
- ・ 制度上の注意点がよくわかりました。博士後期課程4年目以降の学費のことなど、十分に把握できていなかったことも知ることができて、とてもよい機会でした。
- ・ 研究科長におかれましては丁寧にご準備いただき有り難うございました。
- ・ 新規程に基づく博士論文執筆のスケジュールについて、パワーポイントを使って分かりやすく整理していただきおかげさまで理解が深まりました。どうもありがとうございました。
- ・ 分かりやすくご説明いただいているのはよく分かったが、内容が（院生ごとに異なることから）ややこしく、頭にストンとはいかず。都度先生方や教務のみなさんにお世話になりそうです。
- ・ 今回の内容をまずは指導教員がしっかりと理解し、博論指導スタート時から院生とタイムスケジュール感を共有していく必要性を強く感じました。また、以前よりも院生たちが博論準備に向けた縦のつながり（先輩たちの資料から学ぶなど）によって得る機会が減っているように思います。一方で、入学年度による違いをポスドクの方たちにもご理解いただけないと、誤った経験談を伝える恐れもあるなど感じました。短時間でしたが充実した内容のFD研修の設定、ありがとうございました。

- ・ 博士論文(課程博士の場合)とは何か、(どういうものか)、ということを指導する側がまず理解する必要があるのではないのでしょうか。
- ・ 手順、基準が明確になり、今後の指導が可視化されるようになったことは評価できると思います。
- ・ 改正点を詳しく説明していただいて大変ありがたかったです。
- ・ 博士論文完了へのスケジュール感をしっかり意識しなくてはいけないということと、今後は、そもそも学生に研究の能力や意思がどれくらいあるのかを入学時点でしっかりと精査することも重要であると感じた。
- ・ 指導教員が交代せざるを得ない状況が生じるとき、学生が不利益を被ることなく、その博士論文の質を保証できる指導を継続すること。
- ・ 現状の課題がよくわかり有意義な機会でした。ありがとうございました。
- ・ 限られた時間の中で、丁寧なご説明をありがとうございました。
- ・ 現時点では博士課程で指導中の学生はおりませんが、まもなく出てくるかもしれないので、その場合を想定しながらお話をうかがいました。最終学年ではなく、当初から学生とスケジュールを共有する必要があると痛感しました。素晴らしい講演会をありがとうございました。
- ・ 画面を使つての説明が大変わかりやすく、理解を深めることができました。ありがとうございます。
- ・ 非常に丁寧な説明で勉強になりました。
- ・ 来年度より大学院の研究指導教員となるため、それに先立つ形で制度に関するご説明を頂き、大変助かりました。ありがとうございました。
- ・ 様々なケーススタディやシミュレーションが参考として紹介していただければわかりやすいのではないかと思います。

以上

(作成：2024 年度文学研究科長 海老根龍介)